

若者を考える、若者と考える

YOUTH SERVICE

VOL. 35
若者と支援者をつなぐ広報誌

YOUTH SERVICE VOL. 35
2019年12月25日発行

特集
若者
×
支援者

Catch Your Dream 夢をかなえる学校がある!

—普通科目とコース専門科目（希望者のみ）の履修で高校卒業資格を取得



平成29年新校舎のぞみ館完成

選べる4つの登校スタイル Schooling×Style

- クラス制** たくさんの友達と接しながら学ぶ。
 - フレックス制** 自分で登校する時間帯を選ぶ。大学感覚で学ぶ。
 - 土曜日選択制** 指定の土曜日に登校。少人数の塾感覚で学ぶ。
 - 夏冬集中受講制** 夏休みと冬休みなどに集中して授業出席して学ぶ。
- ※それぞれの登校スタイルは途中変更が可能です。

選べる8の専門コース Special×Course

- 進学
- 調理・製菓
- IT
- 理容師・美容師（国家資格取得）
- 芸能マルチ（声優・ダンス・ミュージック）
- 美容
- 保育
- アート

※希望者のみ選択できます。※専門コースは毎年変更できます。※卒業単位に20単位まで認定できます。

盛んなクラブ活動が高校生活を彩ります

マンガ研究部／料理部／写真部／演劇部／茶道部／吹奏楽部／軽音部／声劇部／TCG部／テニス部／卓球部／バスケットボール部／フットサル部／総合運動部／リズムゲーム部／書道部／JS部／放送部／軟式野球部／バトミントン部／フィッシング部／その他
生徒会・保護者会・同窓会が連携して、在校生の活動を支援しています。

不登校相談支援センター なごみ教室

学校生活や人間関係等で不安感や緊張感が高まり不登校に悩む保護者や生徒を対象に、いきいきとした生活を送ることができるように、総勢7名のカウンセラーが支援します。

通信制・単位制・普通科



京都つくば開成高等学校

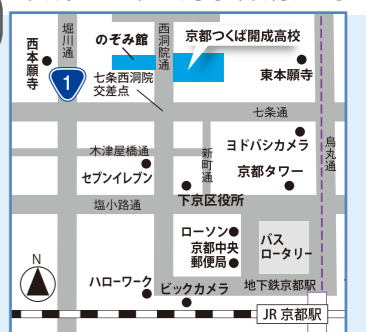
転入学や編入学は、随時受付します。 <http://tkaisei-kyoto.jp/> 京都つくば

〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上る福本町 406 番
TEL:075-371-0020 FAX:075-371-0021
◆JR・近鉄 地下鉄烏丸線「京都駅」より北西へ徒歩8分 ◆京阪「七条駅」より西へ徒歩16分



私たちは青少年育成を
応援しています!

平成27年4月京都府認可



特集 若者 × ジモト

下京青少年活動センター

「大学のまち」「学生のまち」とよばれる京都市。

その名の通り、京都市内に所在する大学・短期大学数は38校、京都市人口の1割に相当する約15万人もの学生が在籍しています*。

世界に誇る寺社仏閣や伝統産業、文化・芸術、学問、食……など、

さまざまな魅力に惹かれ、全国各地、ひいては世界中から、

たくさんの若者がジモト(地元)を飛び出して、ここ、京都にやってきます。

なぜ、京都を選んだのか？

京都からみたジモト、ジモトから見た京都とは？

この先ずっと、京都に暮らし続けたいか？

今回の特集では、京都を軸とした若者たちの「ジモト」観に迫ります。

*京都市「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」による。

ジモト？

KYOTO?

ぷちメッセージ

若者の細道

京都精華大学学修支援センター学生相談室
キャンパスソーシャルワーカー
(2011年立命館大学大学院応用人間科学研究科
ユースワーカー養成プログラム修了)

宮江 真矢



こんにちは。現在、大学の学生相談室で働いています。もうすぐ不惑の年になりますが、まだまだ感じっぱなしの39歳です。

僕が大学生だった頃、誰かと比較しては「俺なんかぜんぜんダメだ」と思い、過去と今を比較しては「はあ、あの時はよかったなあ」と思い、とにかく満たされない時間を過ごしていました。満たされない渦に入り込むと、嫉妬と自己嫌悪が掛け合わさり、莫大なネガティブエネルギーが発生して、自分をさらに追い込んでいきました。「自分はまあまあOK」と思うことが、すごく難しかったことを覚えています。何者でもない自分という辛さを、時代と社会のせいにして汚い言葉を吐き捨てていました。

その後、いろんな価値観を持った人たちと交流して、誰かより上とか下とか、前とか後ろとか、わかりやすいモノサシで計って、いちいち自分の位置を確認していく作業を繰り返すことに、人生という貴重な時間を献上するほどの価値は絶対ないと確信しました(出会ってくれた方々、ありがとうございます)。

現在、学生を含め、若者に伝えたい唯一のことは、「奥に進んでいこうぜ」です。自分基準で「～したい」や「～したくない」を勇気をもって選択することができれば、より自由な空間が広がっていくように思います。簡単じゃないですけど、不満が希望に変わる一番の近道だと思っています。

contents

- 3 特集
若者×ジモト
- 8 高校生が作ったページ
高校生が「教育問題」について考える
- 10 シリーズ
はたらく若者
- 12 TOPICS
『ユスカル! 2019』開催しました
- 14 ユースかわら版
『じぶんみがきダンス』を開催しましたほか

ユースサービスの理念

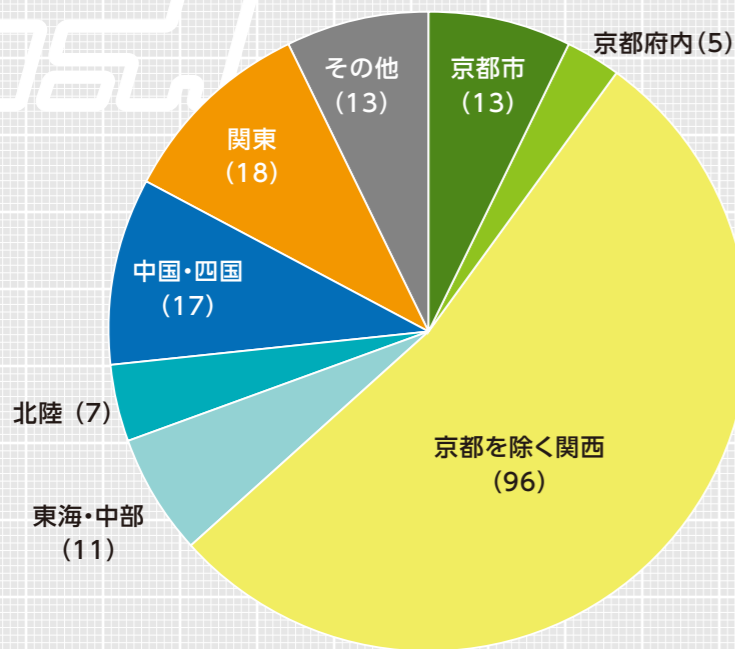
子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。

家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

特集「アンケート」まとめ

京都で学ぶ大学生は、どうして京都に来たのだろうか？そして京都暮らしをどんな風に捉えているのか、それぞれの「地元」との比較で尋ねてみた。下京青少年活動センターを利用する大学生グループと、二つの私立大学生に授業時にアンケート協力をお願いして、180人の学生から回答を得た。並行して社会人にも回答してもらった。少数(13人)ではあるが、大学生との比較で面白い違いも見えてきた。

出身地(と思う所)

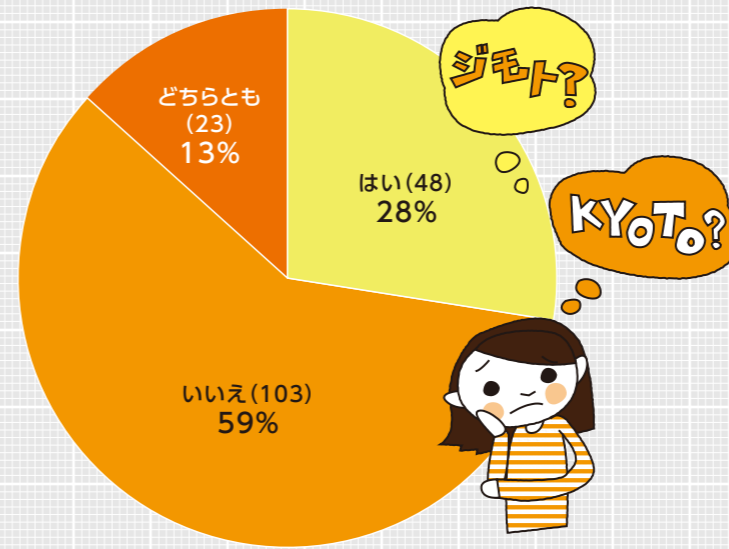


ぜひ私たちといっしょに京都の若者を支えていきましょう！
くお願いたします。
目的です。ご支援のほどよろしくお願いたします。
みなさまの継続的なご支援により、子どもから大人へと時間をかけて成長していく若者を、安定して支える基盤をつくること
募集しています。
助会員(愛称:ゆうサポ会員)を
京都ユースサービス協会
賛助会員
「ゆうサポ会員」募集中

1 京都で暮らすということ

京都に来たきっかけで「京都だから」という明確な理由があったのは約30人(17%)と少ない。逆に「受かった」大学が京都だった、という回答が多かった。また、「卒業後も京都で暮らし続けたい」という比率は28%と予想外に低い。特に関西圏(京都以外)からの学生が低く、京都出身者は半数が「京都で暮らし続けたい」と回答している。数は少ないが社会人の回答(54%)と比較すると差が明らかにありそうだ。京都で暮らし続けたいと答えた人は、「自然が豊か」「落ち着いたところが多い」といった回答から、都会ではあるが小さな町の良さも持っている京都を肯定的に受け止めている。反対に、住み続けたくないという答えの中では、「人・観光客が多い(多すぎる)」「交通の便が悪い」「(気候が)冬寒く、夏暑い」といった点を挙げる人が目立った。

今後も京都で暮らし続けたいか?



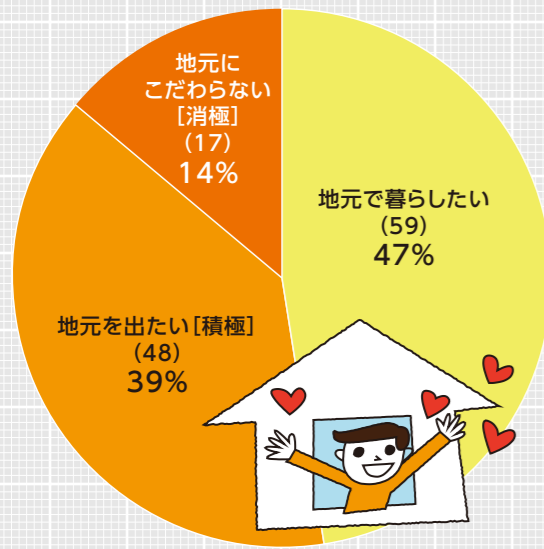
2 地元と京都の違い

関西圏から京都に通学したり、京都で暮らし続けている学生は、京都について「自然が豊か」「景色や街並みがきれい」といった環境についての意見や、「学生が多く、学生にあたかい」といった「人」についての意見が目立つ。また交通環境については「不便だ」という記述も多い。一方、関西圏より遠い地域から来た学生は逆の印象を抱く人も多い。「京都人は怖い」「交通の便が良い」といった意見があり、関西の中での京都の位置付けと、全国の中での京都の違いを窺わせる結果だった。

3 地元で暮らすということ

今回の特集のもう一つの焦点は「若者にとっての地元とは?」ということだった。アンケートからは、「地元で暮らし続けたい」という学生は59人でほぼ1/3。これを多くと見るか少ないと見るか? もう少しその内訳を見ると、「海外で働きたいから」「初めての場所で暮らしてみたい」といった、積極的に地元を離れたいと答える人も48人あった全体の27%がある意味、消極的に「地元」にこだわらない「学生もいた(17人・9%)。どこで暮らすか明確に答えていない人の中には、「まだ決めていない」人が22人いるが、京都のマイナスポイントを書いている人もいて、地元で働きたい人・地元を出たい人・それ以外に分かれるようだ。

地元で暮らし続けたいか?



座談会 京都で暮らすこと - 京都人 × 京都へやって来た人 -

アンケート結果を見ながら、京都で暮らす3名に、様々な視点から京都について語ってもらいました。出身地がバラバラな3人が見つめる、「京都」とは?そしてそれぞれが思う「ジモト」とは……

メンバー紹介は6ページで

京都の交通は意外と不便!?

ゆい 電車もバスも多くて便利だという意見が多いけど、交通の便が悪いと言っている人もいますね。

まゆこ バスに乗るのは大変。桜の時期に渋滞で1時間くらい動かなかったこともありました。

ゆい 時間通りに行けないのはかなり辛いよね。あと、京都は歩行者も自由(笑)

かとう 確かに! 最初来たときびっくりした。「信号あるよね!」って。信号で止まってるのは自分だけみたいな。

まゆこ (京都出身の)私はちゃんと止まりますよ?(笑)

京都の人は怖い!?

まゆこ 京都人は怖いという意見が多いですが。

ゆい そういうイメージがあったから、学生のうちに来たいと思いました。社会人になつてから「コミュニティに入る時

まゆこ コミュニティに入り込めば大丈夫かもしれないな?

かとう そうですね。最初は「あんた誰や?」「みたいな顔をされるけど、それは京都に関係なくそうなるかな。あと、京

まゆこ テレビとかでも紹介されて、そういうイメージがあるから結構きつそうと言われるけど、そんなことはないです。祇園とか、品のあるエリアでは、直接的に「帰ってください」「言えない相手もいるだろうし、そういう時に遠回りに言ったりしているのかな。それがイメージとして先行しているかも。そう考えると、日常で接している中にそんなお上品な場面はない。

かとう 一回…(笑)

ゆい 学生が多く、同年代の人がたくさん集まるという点で、京都は良いなと思います。色々な人とふれあえるので、友達づくりやすいです。

京都は学生に優しいまち!?

まゆこ 学生に対するバックアップが厚い。学生に優しいというよきな意見もありましたね。

まゆこ 学生のための何かがあると

ゆい 自由度が高いところですかね。学生団体に入りたいと思った時に、色々な団体があったし、学生にたくさんチャンスがあるというかも。ちろん、大人の人も関わってくれるけど、学生だけで運営するとか、「学生が主体となつてやっていこう」と言ってくださるのは、人数がいるから実現可能で。選択肢が増えるのも、たくさん学生がいるから「そだね」と思います。

かとう 社会人の目線ではどうですか? **ゆい** 学生の多さは、すごく感じています。「京都に暮らして良かったと思うこと」で、大学が多い、他大学と交流できるなど、学生の数の多さを、学生自身が良い点として捉えていると知れたのは、発見です。あまりそこは意識してないのかなと思っていたので。さらに言えば、なぜ学生が多いことが良いと感じているのか、を知りたいです。

特集 座談会メンバー紹介

- ①名前 ②出身地 ③京都のいいところ ④進学・就職したきっかけ ⑤今後も京都で生活したいですか？



- ①まゆこ
②京都市
③観光地がまとまっている！
地下鉄でどこでも行ける！
④地元だから。
エスカレーター式だから。
⑤No! ずっと住んでいるから。



- ①ゆい
②静岡県
③学生が多い!
④なんとなく。
⑤No... 気候がしんどい。
学生である間に京都に住みたかった。



- ①かとう
②富山県
③街並みがきれい。
老若男女が訪れられるところが多い。
④誘われて転職。
⑤△ できたつながりを大事にしたい&たのしい。

京都で働くってどうなん!?

— 大企業で働きたいから大阪や東京に行きたい、というのはどう思う? 京都にも大企業や有名企業はありますが。

ゆい 選択肢としては大阪の方が

多いと感じますが、京都に働きたい企業があれば残ります。京都は企業と学生がお互いにもっと近づけたらいいのに。学生と協働したいという企業側の話もよく聞くと、学生側も早めに企業と接触したい気持ちがあるのにお互いにもっと近づけていないのがちょっと残念だし、何かいい方法はないかなと思います。

まゆこ

京都が地元だと、みんなが言う京都のいわゆる大企業も、身近すぎてすごさが全然分らないんですよ。

かとう

学生はやっぱ大きいところや良いところで働きたいと、大企業志向が強いなと感じました。

ゆい

そういう友達が結構いますけど、良いところって何を基準にしているのか、大きいところだと何が良いんだろ?とは思いますよね。

京都、地元、はたまた大都会!?

— 今後は地元に戻りたい、大阪・関東圏に行きたいという人が半々くらいで、京都に残りたいという人は少ないようです。みなさんは、どうですか?

かとう 今は、地元に戻ろうとは思

わないです。親からは、地元かも少し近くに来てほしいと言われていますが、なぜわざわざ選択肢を狭めに行かなければならないのかという思いがあって。あと、今がすごく楽しい。とりあえずは、好きなように生きたい(笑)それが無くなって、そろそろ落ち着こうと思ったり、たぶん帰ると思いますが、いずれは地元に戻返したいのか、何か返せる人間になりたいという気持ちがあるんです。

ゆい

仕事をするには都会の方がやりやすいので、都会に行きたいと思うけど、オフィスに行かなくても自宅のパソコンで出来る仕事などがあれば、地元に戻ると思いますが、やっぱり地元は、気候や物価など、暮らすのにちょうどいいです。

まゆこ

京都はお寺のイメージも強いけど、住んでいるところは住宅街で何にもないし、どうしても東京とか、都会に憧れます。あと、ずっと家にいるので、そろそろ家を出たいなと。社会勉強という意味でも、一人暮らしをしたいという漠然とした理由があります。京都には企業もあるし、戻ってきて大丈夫だという安心感とか、そういう余裕があるからこそ、京都を出てみたいんです。

かとう

京都に限らず、地元以外でいう場所だったら残りたいと思うだろう。私も地元から出て、住んでいたところからも出たし、今後は京都からも出るかもしれない……。

— もし地元が京都だったら、ずっと京都にいたいですか?

ゆい

大学か、社会人数年目で一旦京都から出ているかもしれない。離れてからその良さが分かるというのもあると思うし、1つの環境にいるより、いろいろな環境で比較した方が分かることもあると思います。

若者にとって、京都は「大都市」なのか、それとも「地方都市」なのか?

京都市には、38もの大学・短期大学が所在しており、18歳人口は大幅な転入増となっている。この点は、同規模の人口の都市を圧倒している。歴史・文化を背景にしたコミュニティの豊かさという点においても他都市と比べて群を抜いている。これらの点では、京都は東京と遜色のない「大都市」である。フリーエタイプ人材が集まるコワーキングスペースが次々にできているし、京都市青少年活動センターのように、活動的な若者にとっての「居場所」の選択肢も、筆者がこれまでフィールドとしてきた広島や岡山のような「地方都市」より豊富であることは間違いない。

ただし、京都は「都市city」としての強みはあっても、グローバルシティとしてのインフラの魅力において突出した「都会urban」とはいえない。京都市在住の大学生のかなりの部分は、卒業と同時に市外に転出して就職する。国勢調査データ(2015年)を見ると、上京区、左京区、北区の20代後半の人口は、20代前半の人口の半分しかない。その理由は二つある。第一に、京都はビジネス都市としての大規模開発が抑制されてきたためである。第二に、グロ

バル化にともなう東京の本社機能の強化によって、関西全体の地盤沈下が進み、大企業の雇用の東京一極集中が進んだためである。筆者の勤務先である同志社大学でも就職先の半数以上が東京に本社がある企業となっている実態がある。近年、首都圏は毎年10万人の転入超となっているが、そのかなりの部分が関西の大卒者の転出分で占められていることについては、もっと注目が集まっている。大卒人材を東京に流出させているという点では、京都は他の「地方都市」と同じ課題を抱えている。

また、京都で働く若者の多数派の意識を調査してみると、京都の若者はやはり「地方都市」的である。例えば、筆者が学生たちとともに昨年度以来、京都で働く20・30代の若者に対して行ってきた調査のなかでは、たとえば「東京は遊びに行く場所であって、人の密度が高すぎて暮らす場所とは思えない」と「大都市」を忌避し、「自然が近く、適度に都会でちょうどいい」といった地方都市的な環境を支持する者が目立っている。筆者の広島や岡山での調査と比べても、全く同じような回答傾向と言える。よく出かける場所、好きな場

所を尋ねても、若者は全国チェーンのタピオカドリンクの店や居酒屋、子育て世代は大型ショッピングモールのような「京都市的ではない」場所を挙げるケースが多い。NHKのテレビドラマ「京都人の密かな愉しみ」には、京都の歴史文化を体現したような若者の群像が描かれているが、社会学的観点からすると、そのような「京都人」は概念的存在に過ぎない。

京都の多様な専門人材や創造的な人材のネットワークの豊かさを背景にして、大企業や安定した一般企業への就職にあえて背を向け、やりがいや手応えのある仕事を求めるチャレンジングな若者の動きにはしばしば注目が集まっており、興味深い。しかし、その一方で、京都で働く若者のサイレント・マジョリティは地方都市的な「ちょうどいい」暮らしに惹かれている。この分断について考え続けていきたい。



畠田 健司
同志社大学社会学部社会学科准教授
主著「地方暮らしの幸福と若者」
(勤草書房、2017年)

終身雇用制度は崩壊し、働き方が大きく変化している今日。一人ひとりで見ると、よくある話かもしれませんが、でも複数回を並べてみると、そのはたらく姿から現代の若者のすがたがあぶり出されるのではないか。「はたらく」から若者の今を見つめます。



これまでこのシリーズでは、一般的に考える「働く」だけではない、様々な若者を取り上げてきました。今回は、子育ても「はたらく」なのではないか、20代で妊娠・出産を経験された米田さんに話を聞きました。彼女にとっての「はたらく」とは。

米田 暁子さん(20代)

妊娠・出産までの話を聞かせてください。

京都で保育士資格を取り、卒業後は地元九州で保育士として就職しました。

そのため、主人とは大学時代から付き合っていました。九州と中国地方で遠距離になることになりました。もし結婚することになったら退職して引っ越すことになるので、1年で退職すると再就職先を探すときに不利になるんじゃないかと思いつく。2年間はちゃんと働いて経験を積もうと話しました。

その間お互いに行き来することもある。岡山や広島で会うたりもしていました。LINEとかもしていました。結婚をしっかりと考えてはなくて、縁があったらそんな感じになって話していたくらい(笑)。そんなとき偶然主人が転勤で、車で10分の距離に引っ越すことになったのを機に結婚しました。

すぐに子どもが欲しいと強いていたんですか？

結婚してすぐはできたらいいねってぐらいでした。でも「ほしい」と思っただけでいいわけじゃないから話を聞いて真剣に考えるよう

になりました。それもあって早く子どもを授かることができました。仕事の方も、妊娠をきっかけに引っ越しを決めたので、丸3年勤めて保育士の仕事を退職することになりました。

どんなタイミングで関西に引っ越したんですか？

これも子どもを授かったことがきっかけで、主人が不規則だった仕事から土日休める規則的な仕事に転職を考えてくれました。その転職先が関西だったので、帰ってくる形になったのですが、産まれてすぐ長距離の引っ越しは難しかったので落ち着くころを考えると3カ月くらい別々に暮らしていたこともあります。

出産されてからはどんな生活でしたか？

産んでしばらくはほとんど眠れなかったです。ミルク、おむつ、かまってほしいのひたすらくりかえし(笑)。1時間くらいしか寝れてないんじゃないかってときもありました。

母親が集まる場にも行ってみましたが、地域柄もあってか30代

の方が多くて。「平成生まれ？若いー！」って言われるような状況でした。だから友達っていう感じはしなかったですね。そういうのに疲れたこともあって、家に居ることが多かった。余計に閉塞感がありました。子どもが少し大きくなって公園に行っても、子ども同士が友達で、その母親という付き合いがあったので、私の友人ではないというか……。難しいんですが、大学の友達とはやっぱり違います。たね。その場で会ったら話す関係みたいな。

子どもも家と外では違って、外では挨拶もできるいい子って言われるんですが、家での様子と違う(笑)。保育士のときにお母さんが「家にいるときと全然違うんですよー」って言うていたのがすごくわかった気がします。

それに保育士として働いていたときは、毎朝出勤したらたくさん子どもたちと関わっていくけど、仕事が終われば自分の時間になるじゃないですか。実際母親になったら自分の子の人生を背負っているし、自分の時間が母親の時間になりました。

保育士としての知識の面でも、

発達の過程など少し役に立ったこともありましたが、そればかり言われるのはちょっと違和感があった。戸惑うことも多いです。先月も長男が40度の熱を出して大変だった。

職場復帰とかは考えていますか？

子ども達が小学校に入って落ち着いたらまた働いてみたいとは思いますが、でも保育士にこだわりはなくて、家で過ごせるうちに他の資格を取ったら視野が広がるんじゃないかと考えています。まだ考えるだけで何もしていません(笑)。

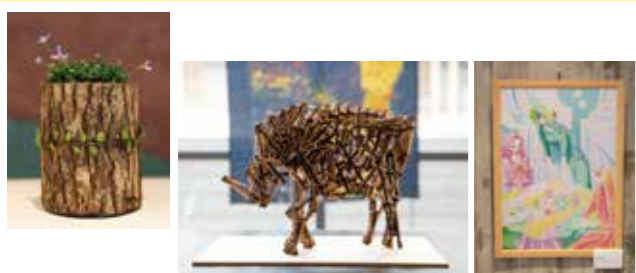
あなたにとって「はたらく」とは？

日常になるということかな……。先日子どもたちを任せて結婚式に出たとき、ひさしぶりの自分の時間ですごく解放感があった。楽しかったんですが、同時に少しそわそわしたんですね。子どもと一緒にいることがもう日常になっていて、いないことが非日常みたいな。

なので、当たり前前に日常に溶け込んでいくものであり、無くてはならない存在です。

ユスカル! 2019 開催しました

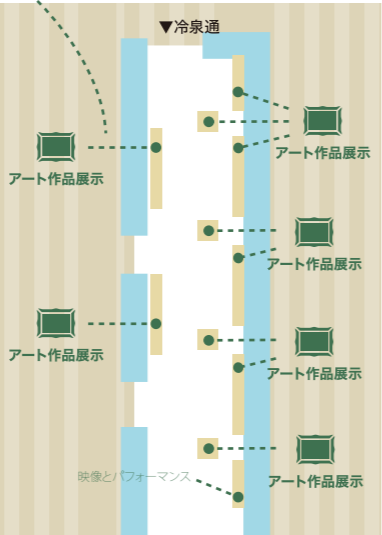
11月16日に、ロームシアター京都にて、『ユスカル!(若者文化市)2019』を開催しました。このイベントは、若者文化の発信事業として、ジャンルを固定せず、若者が面白いと感じていること、表現したい・発信したいことを公募し、ステージとブースを中心に、「若者のミカタ(親方、見方)」をテーマとして、若者からの発信を通して、他の若者や大人の視点からの気づきや発見、若者を応援してくれる人が増えることを目指し、昨年から実施しています。若者が企画運営を担い、各エリアでの出演・出展・出店でたくさんの方々に向けて、自分の日頃の活動や思いを様々な形で発信、交流しました。参加者数は、のべ5,000名(出演・出展・出店・来場者含む)でした。



絵画、イラスト、写真、輪ゴムを使った立体作品、細かな細工で作られた造形作品や実験的に日々創作し続けている作品などを展示しました。明るい日差しを受けて、また表情(見え方)が変わっていく作品もあり、歩いている人も思わず足を止めて見入っていました。



青少年活動センターの共通の特徴でもあるロビーを再現しました。靴を脱いで過ごせる小あがりには、こたつや漫画などを用意し、その周りには、机と椅子を並べ、参加型の掲示プログラムも実施しました。その場に居合わせた人たちやロビーボランティアと、ボードゲームを楽しむ姿も見られました。



ステージでは、中高生から大学生、社会人までの幅広い参加者たちによる、ジャズダンス、チアダンス、民族舞踊+コンテンポラリーダンス、ダブルダッチ、コーラス、フットボールパフォーマンス、ジャグリングなど、様々なジャンルのパフォーマンスが繰り広げられました。客席からは大きな歓声があがり、食事エリアや、立ち止まって見入るひとたちからも大きな拍手が起こっていました。ダブルダッチとジャグリングのグループはみやこめっせ会場(京(みやこ)の「わ!」)にも参加。みやこめっせ会場では他に、活動紹介のブース出店も行いました。

ユスカル! 工房
下京青少年活動センターとつながりのある、アウトドアスポット「友愛の丘」のキャンプカウンセラーの皆さんとお届けする、「自然」を使った工作コーナーです。自分だけの作品と一緒に作りましょう!
若者200人に聞いた「どうしてボランティア活動をしていますか?」の声も展示中!



ステージ
若者によるパフォーマンスをお楽しみください各グループの出演時間は上記スケジュールを見てください。
※パフォーマンスの一部は、みやこめっせ会場でも行われます。



ホットケーキ・ホットサンド・グリーンカレー・フェアトレードのコーヒーを販売。途切れることなく、多くの方に並んでいただき、スタッフは休む暇もなく、作り続けていました。途中で完売になるメニューも出るなど、大盛況でした。リユース食器を使い、環境にも配慮しました。

ユスカル! カフェ
北、山科、伏見、3つの青少年活動センターの若者が共同し、食をテーマに出店しています。

京都ええとこMAP
京都のええとこを教えてください。みんなでええとこマップ作る!!

手づくり市&活動発信
若者が手づくりした素敵な作品を販売します。作り手から直接作品に込めた想いを聞くことができます。また、日頃の活動を発信する若者と出会うことができます。

ユスカル! チャレンジコーナー
ユスカル!のオブジェを背景に自分たちの写真を撮って、SNSにアップしてイベントを拡散してください。アップしていただいた方には景品を差し上げます。



救護テント

スタンプラリー 景品交換場所 インフォメーション



イベントの顔であるタイトル表示を、オブジェとして制作し、ロームスクエア入り口前の広場の中央に配しました。制作に携わったのは、『ユスカル!』の企画ボランティアたち。来場者には、このタイトルオブジェを背景にスマホのカメラで自撮りをしてもらい、その画像をSNSにアップして、イベントの宣伝をしてもらいました。みなさん、ご協力ありがとうございました。



木を使ったものづくり体験として、リースづくりやカードスタンドづくりが人気でした。参加した人たちはそれぞれ楽しみながらオリジナル作品を作っていました。横には巨大な掲示ボードで「ボランティア活動」について様々な声を数多く聞くことができました。



ボランティア企画の「京都のええとこMAP」では、みなさんに京都のええとこを、あそぶ、みる、まなぶなどのジャンル毎に、大きな地図にフラッグピンを刺して教えてもらいました。お隣にはほの暗い小さな家、その隣には絵画や音楽、ワードなどを素材に次々と表現を翻訳して表現するブースが並んでいました。



様々なオリジナル作品が並び、来店者からは創作への思いやこだわりについての質問があり、作品を通じた交流がたくさん見られました。日頃の活動について知ってみたいと集まった高校生や肩もみしながらゆったりとした会話をしている若者など、出店者の個性が光る空間でした。

※ は当日パンフレットの原文です。

ユースかわら版

広報紙に関する
「意見」「感想」は
「おたえる」へ
お気軽に入力してください。



『じぶんみがきダンス』を開催しました

東山青少年活動センターでは9月の終わりに10月初めにかけて、『じぶんみがきダンス』（京都若者サポーターステーションとの連携事業を開催しました。このプログラムは、身体を使って自己表現し、他者表現を受け取る体験をすることを目的としています。1日コースは定員一杯となり、4日コースも定員の8割程度に達し、毎回活気溢れる場となりました。普段とは違う

参加者の様子が見られるのがこの事業のいいところで、少しずつお互いのことを知っていくうちに、「コミュニケーションのきっかけがたくさん生まれました。就活中、あるいは就活準備中の学生も参加できますので、ぜひご参加ください。」

1日コース 1月16日(月)14~16時
4日コース 1月27日(月)、28日(火)、30日(木)、2月3日(月)
各回14~17時
場所 東山青少年活動センター
参加費 無料

大盛況!! 『やませいフェスタ』



11月4日(月・祝)に山科青少年活動センター(通称:やませい)にて、毎年恒例、周りの施設や地域の方と一緒に開催するおまつり『やませいフェスタ』を実施し、延べ2000人以上の方々に楽しんでいただきました。
模擬店はやませい利用の青少年グループ・地域通員「べる」パートナー・山科の子ども食堂などに協力

してもらい、食や遊びのブースが9店舗出展。目玉イベントは2階のスポーツルームで行われた「お化け屋敷」。悲鳴と歓喜の音が響きわたりました。
テニスコートのステージではダンスパフォーマンス(チャ・K・POP・HIP HOP)等や元プロサッカー選手と勝負/キックターゲットコーナー、アコースティックバンド演奏など、今年も「やませい」はイベント・出店盛りだくさんでした。



バレンタイン応援企画 『ちよれえと週間』



「若者のレナイを少しでも応援したい」という気持ちで南青少年活動センターが始めたこの事業も今年で4年目になりました。バレン



ティンも様変わりし、大切な人に想いを届ける日から、仲の良い友人やクラスメイトにお菓子を渡す日に。若者からは「部活のみんなに渡すねん」「明日までに40個作らな...」といった話もよく聞くように

おたえる、twitterはじめました!

京都市ユースサービス協会の半カエル半オタマジャクシのマスコット おたえるが、twitterで広報活動(?)をしています。わたしたちのさまざまな取り組みや日常をおたえるがボヤキをまじえて伝えていますので、ぜひ、チェックしてください!



おたえるプロフィール

- 趣味 人間観察・カフェ巡り
- 好きな食べ物 メさばパフェ
- 好きな言葉 「しらんけど。」
- 似ている芸能人 カーミット



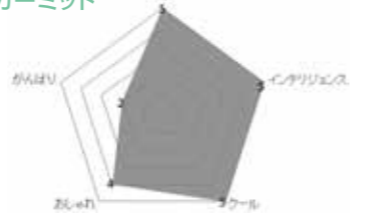
フォローしてな。たのむでー

アカウント



@otaeru_ys_kyoto

※このパラメーターはおたえる自身が設定しました。事実とは異なる場合があります^^



になりました。もちろん、大切な人に想いを届きたい若者もいますが、昔に比べてバレンタインがカジュアルになっている気がします。
しかし、形は変わっても、若者を応援したい気持ちは変わらない! ...というところで、今年もやります! 料理室フリータイム「ちよれえと週間」。ガスオーブン完備の広いスペースで、想いを込めた本命から、友チョコ大量生産まで、家の台所ではできない規模でお菓子作りができますよ。
期間は2月9日(日)~2月13日(木)まで。最終日は、ロビーのカフェがレナイ相談のできるカフェに変わります。この機会に、ぜひお越しください。



発行 公益財団法人 京都市ユースサービス協会 〒604-8147
京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262
TEL: 075-213-3681 FAX: 075-231-1231
E-mail: office@ys-kyoto.org
HP: http://www.ys-kyoto.org
印刷: 株式会社台印刷所 デザイン: 株式会社オム